

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎広尾病院
◎墨東病院

◎多摩総合医療センター

○多摩北部医療センター

○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）

東京都立広尾病院 救急科 東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター 中島 幹男 プログラム研修期間：3年

基幹研修施設の都立広尾病院は、都市部の救命救急センターであり、3次救急・集中治療だけでなく、島しょ医療、災害医療、東京ER、ドクターカーなどにも力を入れています。3次救急は単なる振り分けではなく、各診療科と協力しつつ可能な限り自己完結を基本としています。入院管理はICUから一般病棟まで、多発外傷、ショック、呼吸不全、敗血症、薬物中毒、熱傷など多岐にわたります。島しょ医療、伊豆諸島・小笠原諸島から年間200件程度のヘリコプター・航空機搬送に対応しています。また島しょ医療機関との画像伝送ネットワークによる診断補助や医師派遣なども行っています。災害医療は東京23区唯一の広域基幹災害拠点病院として、各種災害対策訓練を行っています。東京DMATとしての都内出動もあります。東京ERの一つとして1・2次救急にも力を入れており、日中は総合診療的なwalk-in患者から3次救急まで全てに対応しています。ドクターカーによりプレホスピタルの医療も学ぶことができます。さらに豊富な研究業績があり、やる気があれば臨床研究も実施可能です。本プログラムを通して、3次救急だけの研修ではなく、1・2次救急や一般病棟管理、ドクターカーによるプレホスピタル活動、島しょ医療への関わり、災害研修などで総合診療能力を養いつつ、島しょ医療機関のような医療資源の限られた環境でも役に立てる救急医の養成を目標にしています。プログラムについてはニーズに応じて柔軟な対応が可能であり、臨床研究指導・論文執筆も可能です。

研修コース
モデル

1年次

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
救急・集中治療											

2年次

救急・集中治療、災害医療、プレホスピタル、地域医療、関連施設研修（杏林大学医学部付属病院高度救命救急センターなど）

3年次

選択研修（島しょ医療機関も可能） 救急診療・集中治療

● 墨東病院（基幹施設）

都立墨東病院救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター 杉山 和宏 プログラム研修期間：3年

救急医には、目の前の患者の緊急度と重症度を判断し即座に対応する「緊急性」、疾病・外傷などの原因や罹患・損傷臓器の種類を問わず対応する「多様性」、加えて、様々な背景の患者の診療に対応する「社会性」が求められます。これらをたゆまず確実に実践していくことが、救急医療を支えていくための礎となる救急科専門医のモットー（すすむべき道・信条）です。墨東病院はERと独立型の高度救命センターを有し、walk-in患者から生命の危機が切迫した患者まで、幅広い救急診療に携わることができ、救急医の研修に適した環境にあります。また、集中治療科での研修を合わせて行うことができ、重症患者のICU管理を深く学ぶことができます。当プログラムでは、都内有数の症例数を誇る当院での研修を中心に、東京大学附属病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、前橋赤十字病院、島根県立中央病院、小児総合医療センターといった多彩な連携施設にご協力いただき、救急医としての視野を広げることができます。また、研修を通して区東部医療圏の救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事も学びます。日常の診療の他に学術的な活動も重視し、積

極的に学会発表、論文発表を行っております。我々とともに地域の救急医療の更なる発展を目指して研修いただける方をお待ちしています。

研修コース モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救命救急センター			ER			ICU			他科ローテーション		
2 年次	連携施設			連携施設			救命救急センター / ER					
3 年次	連携施設			救命センター / ER								

● 多摩総合医療センター（基幹施設）

東京都立多摩総合医療センター施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急科 清水 敬樹 プログラム研修期間：3 年

【幅広い診療】

当プログラムは、多摩総合医療センターを基幹施設として、上記の連携施設と連携し救急科専門医を養成するプログラムです。当院では、心肺停止、内因性救急疾患、多発外傷、中毒、広範囲熱傷、ドクターカー、ドクターヘリ、神経集中治療、母体救命、精神科救急、災害医療など幅広い診療が特徴です。初療室から入室した重症患者を主科として管理し、速やかに集中治療管理に移行させ、迅速かつ質の高い集中治療管理を行っています。診療の向上・維持・教育を目的に毎日重症患者のケースプレゼンテーションを若手医師が中心になってじっくりと行います。救急・集中治療に関するエビデンスに基づいた知識を経験が豊富なスタッフからフィードバックを受けることが可能です。我々が重要視していることとして「チーム医療」があります。多職種間で協調性を持ちながら最善の医療を提供できる救急科専攻医の養成を目指します。また、救急科専門医の取得後のサブスペシャリティーを採る3年間となるように院内だけでなく、院外研修など様々な機会を提供します。

【ECMO】

当院は、重症呼吸不全に対する体外循環装置を使用した VV-ECMO に関して、世界基準での管理を確立しています。他院で ECMO を導入し ECMO カーで当院に搬送する primary transport も積極的に行っており、実際の経験やシミュレーション教育を通じて本邦で最高レベルの ECMO 研修が可能です。

研修コース モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	救急、集中治療 救急医、集中治療医の基礎を、臨床経験を軸に学びます。											
2 年次	救急、集中治療、病院前診療 1 年次の経験を基にさらに臨床能力を高め、また主にドクターカーによる病院前診療の研修を開始します。											
3 年次	連携施設						救急、集中治療、病院前診療					

2 年次、もしくは 3 年次に合計 6 か月間の院内もしくは院外研修が可能です。6 か月を超えた研修に関しては要相談です。



（医師アカデミー 災害医療研修風景）



（医師アカデミー 感染症対応能力向上研修風景）